

科目名	品質マネジメントシステム（上級）			担当教員	溝添 智哉	常勤・非	非常勤	実務経験	無
対象学年	2年	対象学科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科			履修時間	30		
学修内容	品質マネジメントシステム（JISQ9001）を理解する。								
到達目標	ISO9001規格の全体像を俯瞰し、身の回りの行動（プロセス）に必要な要求事項の要点を説明できるようになる								
授業の方法	「完全図解ISO9001の基礎知識140」を利用して品質マネジメントシステムの仕組み、構成を学ぶ。								
成績の評価と基準	マネジメントシステムの構成、仕組みを、事例を取り上げながら説明できること								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ISO9001規格の基本事項と要点、序文で求めていることを理解する 2. プロセスアプローチ、PDCAサイクル、リスクに基づく考え方を知る 3. マネジメントシステムは顧客満足の向上を目的であることを知る 4. 製品にはQ・C・Dの三要素が求められ、4つの品質側面は寄与する 5. 組織と利害関係者との関係はどう有るべきかを知る 6. 品質マネジメントシステム及びそのプロセスを知る 7. 「リーダーシップ」を知る 8. 「計画」とは何かを知る（なぜ計画フェーズで「リスク」を考えるのだろうか） 9. リスクと機会への取り組みを知る 10. 品質目標を知り、自分の品質目標を作ってみよう 11. 「支援」について（プロセスの目に出てきた「支える人、支える物」との関係） 12. 「測定のトレーサビリティ」を知る 13. 「力量、認識」とは何かを知る 14. 「コミュニケーション」の意図するものを知る 15. 「プロセスの妥当性確認」を知る 								
使用教材等	完全図解ISO9001の基礎知識140 発行：日刊工業新聞社								
履修上の留意点・他	特になし								

科目名	品質マネジメントシステム（中級）			担当教員	溝添 智哉	常勤・非	非常勤	実務経験	無
対象学年	2年	対象学科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科			履修時間	30		
学修内容	品質マネジメントシステム（JISQ9001）を理解する。								
到達目標	規格の要求事項に、自分及び身の回りの行動を結びつけて、要求事項の目的を説明できるようになる								
授業の方法	「完全図解ISO9001の基礎知識140」を利用して品質マネジメントシステムの仕組み、構成を学ぶ。								
成績の評価と基準	マネジメントシステムの構成、仕組みを、事例を取り上げながら説明できること								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ISOとは国際規格を制定するところ 2. 認定・認証制度とは適合性を検証し認定・認証する仕組み 3. 組織は顧客要求事項を満たす製品・サービスを提供する 4. 製品にはQ・C・Dの三要素が求められ、4つの品質側面は寄与する 5. 品質マネジメントシステムの基本について 6. 品質マネジメントシステムとプロセスアプローチ 7. 製品及びサービスについて考える 8. ISO9000ファミリー規格の基本概念 9. ISO9004規格の概要を知る（組織の持続的成功のための運営管理品質マネジメントアプローチ） 10. ISO19011規格の概要を示す（マネジメントシステム監査のための指針） 11. ISO9001規格は何を達成すべきかを考える 12. ISO9001規格の附属書SLが作成された背景を知る 13. 附属書SLはどのようなこうせいになっているのか 14. 「共通テキスト」と「附属書SL」の構成を知る 15. ISO9001規格の全体像を把握する 								
使用教材等	完全図解ISO9001の基礎知識140 発行：日刊工業新聞社								
履修上の留意点・他	特になし								

科目名	品質マネジメントシステム（初級）			担当教員	溝添 智哉	常勤・非 非常勤	実務経験	無
対象学年	1年	対象学科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科			履修時間	60	
学修内容	品質マネジメントシステムで「プロセスアプローチ」について学ぶ。							
到達目標	自分及び身の回りの行動は、一連のプロセスで有ることを認識できて、プロセスアプローチを理解することでリスクについて気づけるようになる。							
授業の方法	「プロセスアプローチの教本 実践と監査へのステップ10」を利用してプロセスアプローチを学ぶ。							
成績の評価 と基準	事例を取り上げ、プロセスフローの作成、プロセスの構造、繋がりとリスクを具体的に記述できること。							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. プロセスを理解する。 2. 自分の行動を箇条書きにしてみよう 3. プロセスは支えられている。 4. プロセスは見つめられている。 5. プロセスアプローチを理解する。 6. 良い結果と悪い結果とは何かを理解する 7. 資格試験の取り組みでプロセスを考える。 8. プロセスの目を理解する 9. 付加価値とは何だろう 10. プロセスの目を使ってプロセスを見守る 11. リスクの目を理解する 12. プロセスの目で分析する（プロセスアプローチ） 13. リスクの目で分析する（リスクアプローチ） 14. プロセスを監査する 15. プロセスを改善する 							
使用教材等	プロセスアプローチの教本 実践と監査へのステップ10 発行：日本規格協会							
履修上の 留意点・他	身近なことをプロセスの目とリスクの目で観察できるような思考を育てる							

科目名	個人情報保護			担当教員	溝添 智哉	常勤・非 非常勤	実務経験	有
対象学年	2年	対象学科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科			履修時間	60	
学修内容	個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）と 個人情報保護マネジメントシステム（JIS Q 15001:2017）について学ぶ							
到達目標	個人情報に関するインシデントについての新聞報道などの記事からリスクと是正策を考えられるようになる。							
授業の方法	個人情報保護委員会（ https://www.ppc.go.jp ）に掲載されている関連法規、啓発資料を活用する。							
成績の評価 と基準	個人情報保護法、個人情報保護マネジメントシステムに規定された用語、安全管理策及び内部監査の目的、及びマネジメントレビューが理解できていることを、グループ討議やレポートの内容で判断する。							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. マネジメントシステムとプロセスアプローチを理解する。 2. 個人情報保護とは（個人情報保護法の目的と社会環境について） 3. 個人情報とプライバシーについて 4. 個人情報のライフサイクル（取得・利用・保管・提供・開示請求・廃棄）について 5. 個人情報の特定について 6. 個人情報の利用目的について 7. 個人情報の取得・利用・保管について 8. 個人情報のインシデントについて 9. 個人データの提供及びオプトアウトとオプトインについて 10. 保有個人情報の開示請求・廃棄について 11. 個人情報保護マネジメントシステム（JIS Q 15001:2017）の仕組みについて 12. 個人情報の取扱いに関する注意事項 13. 日常生活における注意点をリスク分析してみよう 14. もし、個人情報の漏洩が身の回りで起きてしまったら 15. 自分の個人情報保護方針を作成してみよう 							
使用教材等	「個人情報保護委員会ホームページ」に掲載されている記事、「個人情報保護法と企業法務（民事法研究会）」、「個人情報保護法」と「関連法規」と「JIS Q 15001:2017」などを参照しながら講義用の資料を作成する。							
履修上の 留意点・他	法改正やガイドラインの更新について、個人情報保護委員会ホームページから情報収集を随時行い、 講義に反映させるようにする。							

科目名	情報処理概論(情報セキュリティマネジメント)			担当教員	溝添 智哉	常勤・非	非常勤	実務経験	有
対象学年	1年	対象学科	環境情報システム学科 環境情報オフィス学科			履修時間	30		
学修内容	情報セキュリティマネジメントシステムに規定された用語、安全管理策及び内部監査の目的、及びマネジメントレビューについて学ぶ								
到達目標	情報セキュリティに関するインシデントなどの新聞報道などの記事からリスクと是正策を考えられるようになる。								
授業の方法	情報セキュリティマネジメントシステムと関連法規を基本に講義を行う。								
成績の評価と基準	情報セキュリティマネジメントシステムに規定された用語、安全管理策及び内部監査の目的、及びマネジメントレビューが理解できていることを、グループ討議やレポートの内容で判断する。								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報セキュリティにおける被害事例 2. 危険の認識と対策 3. 情報セキュリティの基礎 4. 情報資産とリスク、インシデント 5. 外部のリスク要因（マルウェア、不正アクセス、サーバへの攻撃） 6. 内部のリスク要因（情報システムの脆弱性、組織の脆弱性、Webアプリケーションの脆弱性） 7. 見えない脅威とその対策（マルウェア、標的型攻撃、誘導型攻撃） 8. フィッシング詐欺とその対策、ワンクリック請求への対策 9. スマートフォンの脅威と対策、無線LANに潜む脅威とその対策 10. 組織の一員としての情報セキュリティ対策（セキュリティソフトへの押し売り、ソーシャルエンジニアリング） 11. セキュリティ技術（アカウトとID,パスワード、攻撃手法、ファイアウォール） 12. 暗号とデジタル署名 13. 情報セキュリティマネジメントシステム（JIS Q27001）の仕組みについて 14. 情報セキュリティに関する法律 15. 知的財産を守る法律 								
使用教材等	<p>情報セキュリティ読本 著者：情報処理推進機構（IPA） IPAの情報セキュリティサイト（https://www.ipa.go.jp/security/）のセキュリティに関する情報を活用する</p>								
履修上の留意点・他									

